

## ごみ処理の有料化に関する説明会

1 日 時：令和3年10月2日(土) 午後2時～4時

2 場 所：浅羽西コミュニティーセンター

3 出席者：51人

### 4 次 第

(1) あいさつ

(2) ごみ減量啓発動画の視聴

(3) ごみの有料化(案)の説明

(4) 質疑応答

Q：先日の静岡新聞で、静岡県のごみが減っていると出ていた。先ほどの説明では、袋井市のごみは増えていると言ったが、この食い違いは何か？また、新聞には、掛川市が最も少なく627g、藤枝市684g、磐田市764gとなっているが、今日配られた資料と数値が違うが、年度が違うのか？

A：ごみが減る原因は、大きく2つに分けられ、1つは、1人1人の出すごみが減ること。もう1つは、人口が減れば総排出量は減ります。ただし、新聞記事は1人1日当たりの量ですので、該当はしません。なお袋井市は、人口が増えておりますので、人口減によるごみ量の減はありません。また、静岡県全体では、県民の努力により、ごみは減っておりますが、袋井市ではそういう状況にないということです。それから、掛川市627gという数値を言っていましたけど、市の資料と数値と違うのは、市のデータは平成29年度、新聞のデータは令和元年度。それから、新聞のデータは市のものに、「資源ごみの量など」を加えたものであるので、数値が異なっております。

※当日、「資源ごみの量など」と回答しましたが、「事業系ごみ」が正しい答えでした。大変申し訳ありませんでした。内訳は、下表のとおりです。(掛川市の例)

	家庭系 ごみ排出量	事業系 ごみ排出量	合 計	年度
新聞掲載の数値	490g/人・日	138g/人・日	627g/人・日	R 1
市 の 資 料	498g/人・日	-	498g/人・日	H29

新聞では、家庭系及び事業系ごみ排出量の合計を載せております。市の資料は、市民への説明資料ですので、家庭系ごみ排出量のみを載せた資料となっております。

Q：どうして2種類の数値が使われているのか？

A：国は家庭系及び事業系ごみ排出量の合計を発表しており、新聞はそれを使用しています。一方市は、市民の方への説明で使用する資料なので、家庭系のごみだけをお示ししています。

Q：人口が増え、若い人たちも増えている。値上げだけでなく、ごみの分別など、そういった人たちの意識を高めていく働きかけが不足しているように思う。今、海の上を含め、沿岸部では風がすごく強くなっている。温度が高く、お米も収量が落ちている。メロン

も気温の急上昇により、ネットがうまくできず、玉も小さいと聞いている。こういったことも踏まえ、市としてどう意識を高くしていくのか？

A：若い人たちへの啓発も、引き続き行っていきます。ごみの分別については、まずは自治会等の役員の方に、ご理解いただきたいと思います。常には、各自治会の環境美化推進委員を対象に、説明会を行わせてもらっています。ここ2年は、コロナでできていませんけど、来年は分散開催をしてでも、行わせていただきたいと考えています。

Q：ごみ袋の値上げは、4倍と急激である。意識を高めながら、段階的にやっていくことが必要ではないか？

A：ごみ袋の値段については、説明会を行うに当たり、「いくらか決まっています」、「値段の根拠もありません」では、説明もできませんので、案としてお示ししています。決まったわけではなく、今回の説明会はそのための説明会で、皆様のご意見を伺う中で、総合的に決めさせていただく考えです。

Q：この地域には、太田川、原野谷川が流れており、不法投棄が心配。自治会任せでは困る。市は、その対策をどのように考えているのか？

A：不法投棄については、今2人1班体制で、取り締まりに回っています。有料化で、不法投棄が増える可能性があるのもう1班増やすなどの対応を行ってまいります。自治会任せでは困るということですが、環境政策課にご連絡いただければ、対応します。

Q：草木の回収で、コンテナを置く話があったが、年2回では賄えきれないと考えるがどうか？

A：コンテナについては、案で年2回と説明させていただいていますので、常設がいいのであれば、そのような対応も検討させていただきます。

Q：草木については、チップにし、畑に入れたらどうか？

A：市内では、八ヶ代造園で草木をチップにし、土壌改良剤として再利用しています。先ほど説明させていただいた、コンテナで集めた物もそのようにする考えです。また、中遠クリーンセンターに搬入された草木についても、八ヶ代造園に運び、木チップにしています。

Q：CO<sub>2</sub>の再利用について、理工科大学もあるので、ぜひ研究していただきたい。

A：CO<sub>2</sub>の再利用については、理工科大学にも相談してみますけど、袋井市だけでというのは難しいと考えます。ただし、CO<sub>2</sub>の再利用については、世界的にそういった研究が進められておりますので、そういった情報に対しアンテナを高くして、取り組んでいきたいと考えます。

Q：ごみ袋1袋燃やすのに60円とのことですが、その内訳を教えてください。例えば、燃料費、電気代など、最安値のものを使用しているのかといったことを聞きたい？

A：中遠クリーンセンターは、長期包括委託という形で、10年間、一切合切まとめて委託契約をしています。金額については、1度契約してしまえば、10年間変わらないというのでは、お互いリスクが高いので、燃料費や電気代など、値段の変動に合わせ見直す形となっています。そのため、最安値とは言えませんが、適切な価格では契約をさせてもらっております。全てのものについて、細かく分け、その都度その都度、契約の見直しを行うと、膨大な事務量が発生し、人もそのために増やさなければならないので、相対的にはその方が経費は安く済むという考えで、そのような契約としております。

Q : ごみが10年間で5,000 t 増えているといったが、増えている理由をどう分析しているのか？

A : 5,000 t 増えている原因の半分が汚泥です。汚泥は2種類あり、下水汚泥とし尿汚泥。下水汚泥は、皆さんの家庭が公共下水道に接続した場合、下水処理場の方で出る汚泥です。し尿汚泥は、皆さんの家庭の浄化槽から出る汚泥です。増えているのは下水道汚泥で、区域が拡大すれば増えていきますので、そういった理由で増えています。し尿汚泥は、下水道区域が拡大すれば減るわけですが、袋井市は全域が下水道区域とはなっていませんので、大きく減っていることはありません。また、下水道汚泥については、当初の計画に比べれば、あまり増えておりません。下水汚泥については、中遠クリーンセンターの建設以前は、民間施設で処理していましたが、自前で処理した方が安いということで、国の補助金ももらう中で、中遠クリーンセンターで処理することとしました。残りの2,500 t が増えている理由は、皆さんの家庭から出るごみが約800 t、市内の事業者から出るごみが同じく約800 t、森町から出るごみがこれも約800 t 増えています。今日の説明会で、問題と考えるのは、皆さんの家庭から出る約800 t 増えたごみです。800 t 増えた理由は、ほぼほぼ、プラスチックごみです。月2回収集していましたが容器包装プラスチック以外のプラスチックや、容器包装プラスチックでも汚れているものは、焼却処理をしていました。そのため、皆さんの利便性を図るため、「可燃ごみとして、緑の袋に入れても良い」としたところ、「プラスチックは何でも燃やしていい」という解釈が広まってしまいました。あわてて広報等させていただきましたけど、払拭するまでには至っていない状況です。

Q : 草木のコンテナの設置について、自治会の負担とならないようお願いしたいがどうか？

A : コンテナについては、地元で置かせてもらうものなので、また、皆さんとよく相談させてもらった上で、計画を進めていきます。

Q : クリーンセンターの処理料金は、そのままなのか？

A : 中遠クリーンセンターは、平成20年の稼働から一度も手数料の見直しを行っていないため、磐田市、掛川市に比べ、安くなっています。近隣に比べ安いと、近隣のごみが中遠クリーンセンターに入ってくる恐れがあると、専門家からも指摘を受けています。そのため、現在、袋井市森町広域行政組合の方で、磐田市、掛川市並みにしたいと、手数料の見直しを考えています。

Q : 藤枝市、焼津市は無料で指定袋もないのは最高だと思った。ここを目指すべきではないか。価格でごみ量をコントロールするのは乱暴だと思う。人口が増えることは大変良いこと。その代わりにごみが多少増えたとしても、お金を使って対策をする。それこそサステナビリティ、持続可能な社会で、もっと大きな視点で見る必要がある。

A : 藤枝市は、ごみが少ないです。理由は、市内に生ごみ処理の事業者があって、その事業者が生ごみは肥料化しているため、少ないです。袋井市もそれが理想で、市内の事業者にも協力してもらいそこを目指したかったのですが、臭いの問題で、立地先の住民の理解が得られない現実があります。そのため、大型生ごみ処理機でその代替えができないかと考えています。そのために今、浅羽の給食センターで実験もしています。

Q : 私も仕事で携わっていましたが、リサイクルも色々ある。CO2削減に繋がっていない事業者もある。環境協力の名のもとに、事業を行っているが、ずれている事業者も多い。その辺の見解を伺いたい。

A：確かに、リサイクルはずれている事業者があるように、私も感じます。今、国の方で、プラスチックを容器包装だけでなく、一括回収することが考えられています。それに合わせて、しっかりとリサイクルが行われるように、国の方にも要望していきたいと考えます。

Q：プラスチックを燃やしてしまった方が、かえって環境にやさしいと私は考えるがどうか？

A：そういった議論は確かにあります。私の知識では、本当に全てを比較して、こうした方がいいですよといった比較をしたことがないものですから、的確な回答ができませんけど、市とするとしっかりと分別を行い、的確なリサイクルが行えることを目指していきたいと考えます。

Q：中遠クリーンセンターで使用されているコークスは、1番CO<sub>2</sub>を排出する燃料ではないか？使っている理由として、価格が安い以外で回答がありますか？

A：石炭ですので、CO<sub>2</sub>の排出量が多いことは承知しています。価格が安いのは当然ありますけど、もう1つには熱量が高いため、ごみ処理がうまくいくということがあります。中遠クリーンセンターは、日本製鉄製ですので、鉄を作るのと全く同じ原理でごみ処理をしています。鉄は炉にコークスと鉄鉱石を入れ溶かしているのですが、鉄鉱石の代わりにごみを入れ、溶かして処理をしています。そのため、コークスをやめ、外のCO<sub>2</sub>が少ない燃料を使うことはできません。ただし今、なるべくコークスの量を減らすために、木チップを一定量入れ、コークスの削減をすることはしています。

Q：裏の外国人が、産業廃棄物を緑の袋で捨てている。何度も指導するように市へ要望しているが、一向に改善されない。

A：私も直接は把握していないので、担当に確認して、対応させていただきます。

Q：ごみ袋の値上げは確かに大きい。ただし、私は以前に町田市に住んでおり、10枚で800円だったので、ごみ出すのにお金が掛かるんだなあと思ったけど、反対に、どうやったらごみを減らせるか意識が働いた。今回、有料化の話があった時に、周りの30代、40代の子育て世代が、どうやったらごみを減らせるか、フェイスブックやインスタグラムといったSNSを通じて、情報共有をするようになった。フェイスブックでは、7月に「ごみ減量作戦」というグループが作られ、今190名くらいの方が、ごみ減量方法の情報共有をしている。家庭ごみを減らすのには、生ごみを減らすのがポイントらしくて、自宅で自作のコンポストを作り、堆肥化する主婦が増えている。そういった主婦は、生ごみが減ったイコールごみを出す回数が減り、朝忙しい時間に余裕ができた。その話を聞き、別の主婦も始めてみよう、いい循環が起こっているの、有料化の提案が、プラスに働いていることも多い。ごみ減量に意識を向けるいい機会になったと思う。そういったSNSには良い情報が溢れているが、SNSだと壁が高い人もいるので、そういった情報を市ですくい上げ、情報共有することができれば、すごく地域にプラスになると考えるがどうか？

A：フェイスブックのグループには、私も入っています。ただし、あまりSNSに詳しくないので、情報を見させてもらうにとどまっており、うまく活用ができていません。今回、有料化の話を出したことで、多くの人に関心を持っていただき、こうすればごみが減るといった提案も多く寄せられました。確かに、いい機会になりましたので、市ももっと情報が出せたらと思っていますので、また色々と教えてください。

Q：分別してプラスチックを集め、燃やしてはいないのか？

A：容器包装プラスチックは、容器包装リサイクル法に従い、分別収集し、容器包装リサイクル協会を通じ、リサイクルを行っています。容器包装プラスチック以外のプラスチックは、リサイクルの方法がありませんので、中遠クリーンセンターで燃やし、熱回収をしている状況です。

Q：どれくらいCO<sub>2</sub>の削減に繋がっているのか調べているか？

A：CO<sub>2</sub>の排出量は、計算で出すことはできます。ただし、他の方法で行った場合と比較をしているわけではありませんので、削減の効果というものは分かりません。

Q：ごみ処理の有料化と同時に、水道料金、下水道料金も値上げとなる。ごみ処理の有料化については、100.5円で提案したい。

A：30円は案ですので、全ての説明会終了後に、説明会で出た皆さんの意見を参考にさせていただきます、総合的に判断し、金額も決めさせていただきます。

Q：平成28年度の収集方法の見直しにより、容器包装プラスチックが、リサイクルから可燃ごみの方へ大分入ってしまっている。その対応をすぐにでもお願いしたい。

A：市もこのことにより、ごみが増えていることを実感していますので、さらなる分別の徹底を呼び掛けていきます。

Q：紙おむつのリサイクルはどう行うのか？

A：紙おむつのリサイクルは、全国で鹿児島県の志布志市と福岡県で行われています。いずれもユニ・チャームが関係しており、掛川市に工場もありますし、ユニ・チャームでは全国10か所でリサイクルを行いたいとも言っていますので、掛川市には、一緒にやりましょうとお願いしてあります。紙おむつは、主には紙とプラスチックにリサイクルできます。紙はパルプとして、再度紙おむつや建築資材の壁紙などにリサイクル可能です。プラスチックは、固めてRDFとして燃料にできます。また、汚れ、便については肥料として利用可能なようです。市としては、全国10か所の中に入りたいと考えています。

Q：事業系のごみの取り扱いはどうなっているのか？

A：事業系のごみは大きく2つに分かれ、1つは産業廃棄物。この処理は市の範疇ではなく、その事業者が直接、産業廃棄物処理業者に委託し、処理することとなります。それとは別に、事業系の一般廃棄物というものがあり、事業所の事務室から出される紙ごみ、後はレストランやスーパー、コンビニの生ごみになります。これらは事業系の一般廃棄物なので、中遠クリーンセンターで処理できます。その事業者が一般廃棄物運搬業者に委託し運んでもらうか、自身で中遠クリーンセンターに持っていき、手数料を払って処理することとなります。

Q：資源ごみ、不燃ごみの回収はどうなるのか？

A：集団回収については、自治会の役員の皆さんの負担が大きいと承知しています。国の改正により、プラスチックが一括回収となれば、新しく袋を作り、可燃ごみの収集か所で、週1回集めることができるのではと考えています。そうなれば、月2回の集団回収では集めるのをやめれば、立ち会いの人数も減らせ、自治会の役員の皆さんの負担も減らせることができるのかなあと考えています。その場合、収集に掛かる費用は増えることとなります。いずれにしても、国の動向を見ながら、収集方法の見直しを行っていきたいと考えています。